

尻屋埼灯台が「恋する灯台」に！



波房会長（右）と横断幕を持つ越善村長

（注）恋する灯台プロジェクト

日本財団や国土交通省などが連携して取り組む「海と日本プロジェクト」の一環として、（一社）日本ロマンチスト協会と日本財団が共同実施するもので、「灯台」の文化や歴史的価値を可視化し、強力な観光資源とするため、灯台を恋愛の聖地として認定し再価値化するプロジェクト。

今後、「恋する灯台」をキーワードに住民と共に様々な活動を展開していきますので、村民の皆さんの参加をお願いします。

本州最北東端。本州最涯の地。その波房会長によると、尻屋埼灯台はういった表現さえされる尻屋埼。そなんといつてもそのスタイリッシュの突端に立つ「尻屋埼灯台」が、こユな建築と点灯140周年を迎える度、全国で21カ所しかない「恋する歴史的・文化的価値、そして、灯台」の一つに認定されました。台にたどり着くまでの最果て感が「恋する灯台」とは、非日常感、他の灯台に比べて特に優れている物語感、到達感、創造感、最果て感、とのことでした。

認定を受け、越善村長は「140周年の節目で観光行政に弾みがつく。ジオパークや既存の観光資源も活かしながら、観光産業の起爆剤として、若い世代が目的を持って、後世に残るような取組みを楽しみながらやって欲しい」と期待を込め選定理由の説明、今後の事業展開などを話し合いました。

戦争の悲しみを忘れず、恒久平和を願う

～平成28年度東通村戦没者追悼式～



越善村長による追悼のこぼ

9月6日、第63回東通村戦没者追悼式が村体育館で挙行されました。

追悼式は、先の大戦で犠牲となつた、二百余柱の戦死者の英霊を追悼すると共に、世界の恒久平和を祈念するため行っているものです。

戦没者への黙禱に続き、越善靖夫村長、丹内俊範村議会議長、小林義明村遺族会長が追悼のこぼを述べ、参列者全員が二百余柱の英霊に白菊の献花を捧げました。

戦争によって肉親を失つた遺族の方々の心には、消えることのない深い傷跡が残っています。

今を生きる私たちは、過去の悲惨な戦争から学んだ教訓と平和の尊さを決して忘れることなく、二度と戦争を繰り返さないことを次の世代に引き継がなければなりません。



遺族による献花



遺族会の小林会長による献花



体育館に設置されたモニュメント